

1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0872600051		
法人名	有限会社 福祉未来計画		
事業所名	グループホーム 榎子木		
所在地	茨城県那珂市戸崎508番地3 (電話)029-353-0583		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年8月2日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成20年7月13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.8人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 10万~30万 円	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	なかむらクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな自然環境の中に立地しており、大きな榎の木に囲まれた暖かな雰囲気のあるホームである。庭にはさくらの木や紅葉など季節感を味わえる草花が多く、各居室から見える庭の雰囲気は木々に囲まれた公園のように見え、ゆったりと落ち着いた雰囲気が作られている。管理者が看護師ということもあり医療面での充実化を目標に健康に生き生きとした生活が送れるように健康管理に配慮している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域に根ざしたホーム作りに配慮し、地域の情報を積極的に聞き入れ、自治会に入会し地域の活動に参加したり行事を行うなど地域に根ざしたホーム作りに取り組んできた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が代わり間もない時間での外部評価となったが、管理者がホームの内容を把握し自己評価を作成、外部評価を通しさらなるケアの向上を図る意欲的な取り組みが見られた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度実績は、5月に1度行われており、行政をはじめ家族、地域、職員を交えた推進会議が開催されている。今後は、推進会議の有意義な取り組みへの体制作りが検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	特に定期的な家族への通信やたよりは作成していないが、家族の面会が24時間可能という体制もあり、家族が気兼ねなくホームに面会にこられるよう工夫されている。その中で職員が直接家族と話をすることで、利用者の状況や今後の予定など説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年から、地域連携に力を入れ地域に密着したホーム作りを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気、散歩や外出を通して地域に開かれた施設・地域に根ざしたホーム作りに配慮した理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや、職員会議を利用し管理者から理念をふまえたケアの提供を強調し職員間での共有をはかっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動に力を入れ、自治会に入会し、地域の活動などに積極的に参加し地域に開かれたホーム作りに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関し管理者がホーム全体を把握し自己評価に取り組まれている。	○	外部評価の結果を基に職員全体が外部評価を理解し、自己評価項目へ参加し、今後はホーム全体で外部評価に取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政、家族、職員参加の下、推進会議が開催されている。一年に4回最低でも一年に3回の開催が行政からの指導となっており今年度5月に開催された実績がある。	○	推進会議を2ヶ月に1度開催できるよう行政との連携を図り取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には、管理者自ら足を運び職員の変更やホームの状況について細かく報告する一方、行政からの指導なども積極的に受け入れ連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な情報の報告などは行っていないが、家族の面会を24時間可能にすることで家族の来所が多く、家族と直接関わることで利用者の情報を直接報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱などを設置し家族からの意見を収集するよう配慮している。	○	早急に要望や苦情などの意見を収集し、家族会などで、家族全体の意見としてホームに提出できるような配慮や工夫に取り組まれない。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交替などによる利用者の不安を軽減するために、家族の協力の下、毎日面会に来ていただいたり、職員が複数で関わり混乱を少なくできるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や防災などの外部研修に積極的に参加し、出張扱いにより職員も負担なく研修に参加出来るよう工夫されている。また毎月一度、外部講師をまねき認知症ケアについて基礎から研修を行う年間計画がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者と情報交換をしている。地域性もあり近隣同業者との交流が難しいが、今後交流を持ちたいと考慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めての利用者には、いつでも自宅に帰れるように配慮したり閉鎖的な場所ではないことを強調している。また使い慣れた馴染みの物を身の回りに配置し安心出来る空間を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭菜園や漬物、裁縫などを利用者に教えていただいたり支え合う関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全を第一に利用者の要望には、早急に対応できるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当者が情報を聴取し計画を作成している。	○	今後は、担当者制度を生かし様々な方向から利用者の状況を収集しチーム全体でのケアプラン作成に取り組んでいただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画を評価し、見直しを行っている。	○	担当者や職員の意見を収集し、職員全体でプランの把握、見直しに取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊やホームの特性を生かした取り組みが行われ地域に密着し、開かれた多機能性を生かしたホームが造られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医師による月に二回の往診が行われている。また利用者馴染みの医師への受診も家族送迎及び有料の職員送迎で可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては受け入れは行っていない。終末期における利用者及び家族の意見を今後慎重に受け入れ検討していく計画がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個室や、記録物など外部から確認が出来ないように保管されプライバシーの保護を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を尊重し利用差のペースを維持できるように職員全体で高齢者のペースにあわせたケアの提供が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、夕食に関しては、利用者とともに同じ物を職員も一緒に食べ食事を楽しむ配慮がある。	○	今後は、昼食も時間の工夫や食事を一緒にとることでの楽しみなどについて話し合い、職員と利用者が一緒に食事をとる家庭的な雰囲気について取り組んでいただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望により夜間の入浴も可能となっている。また拒否などの強い場合は、シャワー浴や清拭で対応し清潔の保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性の利用には文字を書く役割など、女性には食事の準備や裁縫など利用者の生活史などに応じた役割があり楽しみごと気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会を多く持ち買い物や散歩、外食などで戸外での生活が楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず利用者の好きな時間に戸外に出る事が出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の非常時、災害時の避難訓練が行われている。	○	非常災害時の避難訓練のほか、職員全体で広域避難場所の確認及び大規模災害に備えた非常持ち出し物品や非常食などの備蓄に配慮されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の一日の水分摂取量や食事量など細かく記載され利用者の摂取状況が簡単に理解できるよう工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々としており、利用者が自分の居場所を居室以外に設けられる空間が保持されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の馴染みの物品や安全に配慮した配置とされ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		